

1 単元名 近世への転換

2 本単元の見目標

- (1) 織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解する。
(知識及び技能等)
- (2) 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。
(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 時代の転換に着目して近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現し、追究しようとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解している。	思①村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。	態①時代の転換に着目して近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現し、課題を主体的に追究、解決しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領日本史探究の大項目C「近世の日本と世界」の中項目(1)「近世への転換と歴史的環境」を学習する。ここでは、「織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現し、時代の転換に着目して近世の特色について理解すること」をねらいとしている。

本単元を通して、中世から近世への時代の転換を考察するが、単元を貫く問いとして「なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのか」ということを提示する。この問いは戦国時代から江戸幕府成立にかけてどのようなことがあり、どのような変化が起きたことで、戦乱の世が終わったのかを問うものである。この問いをもとに、応仁の乱がもたらした影響、戦国大名の登場とその領国支配、織豊政権の特色を捉え、中世から近世にかけての変化、そして後の幕藩体制につながる要因、すなわち時代の転換を生徒に捉えさせたい。

(2) 生徒観

本校の3年*組は、専門学校進学 of 生徒が多く在籍するクラスである。日本史はもとより学習全般に対して苦手意識が強く、興味・関心が薄い生徒が多い。中学校までの学習事項の理解が乏しい生徒も多い。それゆえ、個人に与えられた課題に対して積極的に取り組む生徒は少ない。また、他者とコミュニケーションをとることが苦手な生徒が多く、ペアワークやグループワークに積極的に参加する生徒も少ない。ただし、本校の特色である「探究活動」に積極的に取り組んでいる生徒もあり、他者とともに考えることに苦手意識のない生徒も少数いる。そうした生徒を中心にペアワークやグループワークなどを通して対話的な学びができるようになりつつある。こうした状況を踏まえ、(1) 調べ、考えること、(2) 調べたことを他者と共有し、他者とともに考え、自己の考えを見つめ直すといった主体的な学びの実現に向けて学習を進めていきたい。

(3) 指導観

本校生徒の実情に合った主体的な学びを実現するために、生徒が興味をもちやすく、追究に値する課題を提示し、それを考察する学習活動を展開する。

本単元での授業実践にあたり、小中学校での学習事項も含めて既習事項の中で一番最初に思い浮

かぶ歴史上の人物を本校生徒に聞いたところ、織田信長や豊臣秀吉の名前が多くあがった。既有知識が乏しい中でも、信長や秀吉は本校生徒にとっては「知っている」歴史上の人物であるといえる。ただ、信長や秀吉について知っていることを聞いたところ、知っていることは「ない」と答えた生徒も複数名おり、信長や秀吉の天下統一事業や政策についての既有知識が非常に不足しているということが分かった。つまり、本校生徒の多くは、信長や秀吉について、なんとなく知ってはいるが、何をやったのか、そして信長、秀吉の業績がいかに時代を動かしたのかということについては分からない状態であるといえる。しかし、信長や秀吉の天下統一のための事業が、近世社会の基盤になっていることは明白であり、彼らの事業について考察することは「なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのか」という単元を貫く問いを探究する上で重要である。それゆえ、本授業では信長、秀吉の政策の評価をし、「時代を動かしたのは信長、秀吉のどちらだろうか。」というテーマについて、グループワークを通して考えることで、単元を貫く問いの答えを生徒が主体的に見出すことができるようにしたい。

5 単元の指導計画（10 時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	課題 応仁の乱はどのように発生し、どのような影響をもたらしたか。 ・資料をもとに、応仁の乱がどのように発生し、どのような影響をもたらしたかまとめる。 まとめ 応仁の乱は下剋上の風潮を生み出し、地方に戦国大名を出現させた。また、京都の文化が地方に波及した。	○			知：応仁の乱での足輕の活動状況などの資料から応仁の乱の特徴を読み取っているかを見取り、読み取ることが難しい生徒にはスライドで確認させたり、ペアワークで確認させたりするという手立てを講じる。 【ワークシート、観察】
単元の学習問題（学習課題） なぜ戦乱の世が終わりを迎えたのだろうか？						
		・戦乱の世を終わらせた影響が大きい人物、出来事、物を選び、予想したことを書き出す。			○	態：単元の学習課題について、見通しをもって学習に取り組もうとしているかを見取る。見通しがもてない生徒には予想を立てることができるよう助言する。【ワークシート、観察】

2	課題 戦国大名はどのように領国を支配したか。 ・各地の戦国大名の分国法や政策から戦国大名の領国支配のねらいについて考察する。 まとめ 戦国大名は、分国法や食糧確保のための政策、経済政策をもとに家臣団の統制や民衆の支配を行っていた。		○	思：戦国大名の分国法や政策の目的（ねらい）について考察しているかを見取り、考察することができていない生徒にはペアワークで協働するという手立てを講じる。 【ワークシート、観察】
2	3 課題 ヨーロッパ人は日本に何をもたらしたか。 ・ヨーロッパ人がもたらした鉄砲が日本社会に与えた影響について考察する。 まとめ 大航海時代でヨーロッパのアジア進出が促進され、その中でポルトガル人が日本に到達し、鉄砲がもたらされた。また、宗教改革の中で、宣教師もアジア、そして日本に到達し、キリスト教が伝わった。		○	知：鉄砲が、戦いや築城法に与えた影響を考察しているかを見取り、考察することができていない生徒にはペアワークで協働するという手立てを講じる。 【ワークシート、観察】
4	4 課題 なぜ民衆や大名はキリスト教を信仰するようになったのか。 ・ザビエルやイエズス会の日本での布教についての資料をもとに、民衆がキリスト教を信仰するようになった要因と大名がキリスト教を保護した要因について時代の特徴を踏まえた上で考察する。 まとめ ・スペイン人やポルトガル人との南蛮貿易の利を求め、大名がキリスト教を保護した。 ・宣教師の貧民救済や医療活動が戦乱による社会不安が広がる状況の中で人々に受け入れられた。		○	知：ザビエルやポルトガル船が日本にもたらしたもののからキリスト教が普及した要因について、多角的・多面的に考察しているかを見取り、考察することができていない生徒にはペアワークで協働するという手立てを講じる。 【ワークシート、観察】

3	5	課題 なぜ、織田信長は勢力を広めることができたのか。 ・ 織田信長の統一事業や政策を調べ、その特徴について考察する。 ・ 織田信長の統一事業や政策の特徴から、織田信長の業績の功罪についてまとめ、グループで共有することで多面的・多角的にとらえる。 まとめ ・ 信長は室町幕府再興をめざして中央政権に進出した。 ・ 信長は周辺大名や仏教勢力との戦いに勝利していった。				○ ○ 思：織田信長の統一事業や政策で、時代の変化をもたらした政策、戦略を選択し、選択したものを考察しているかを見取る。選択することができていない生徒には、気になったことを選択し、そこから考察するよう助言する。【ワークシート、観察】 ○ 態：考察したことをグループで共有する活動に参加することができていない生徒については、グループ内で協働するような声かけを行う。【観察】
	6	課題 秀吉はなぜ天下人になれたのか。 ・ 豊臣秀吉の天下統一事業を調べ、天下統一のために優れていると思うものを選択し、どのような点が優れているか考察する。 まとめ ・ 秀吉は信長の後継者としての地位を戦いに勝つことでいち早く築くことができた。 ・ 関白として朝廷の権威を利用しながら大坂城を拠点に他の大名を屈服させていった。 ・ 惣無事令を全国に発出して平和を押し進め、逆らう勢力は討伐した。				○ 思：秀吉の天下統一事業で優れていると思う事業を選択し、それについて考察しているかを見取る。選択、考察ができていない生徒にはペアワークで協働するという手立てを講じる。【ワークシート、観察】
	7	課題 秀吉の政策で社会はどのように変化したのだろうか。 ・ 太閤検地と刀狩りによって変化した近世の社会の仕組みを中世と比較して考察する。				○ 思：秀吉の太閤検地と刀狩りが農民にとって良い政策だったといえるのか考察しているかを見取る。考察することができていない場合は、スライドでそれぞれの政策のねらいを提示するなどし、考察することができるような手立てを講じる。【ワークシート、観察】

		資料をもとに朝鮮侵略の実情と朝鮮侵略の社会への影響を考察する。 まとめ 太閤検地や刀狩りによって兵農分離が進んだ。朝鮮侵略によって、朝鮮が荒廃するとともに、日本に朝鮮の文化、技術が伝えられた。				
5	8 9	課題 時代を動かしたのは信長、秀吉のどちらだろうか。 1 「時代を動かす」という言葉の意味を考える。 →「時代を動かす」とは、戦乱のない安定した社会を築くことにいかに貢献しているかということを理解する。 2 グループに分かれ調べ学習を行う。 ・グループ内で誰がどの事項を調べるか話し合う。 「人物」、「政治政策」、「経済政策」「戦い」、「その他時代を動かしたと考えられることなど」、5項目を分担して調べる。 3 5項目のうち、「時代を動かす」ことに最も影響が強い項目はどれかについてグループで考察し、考察したことをワークシートにまとめ記述する。 ・その人物が時代を動かしたといえる決め手を考え、ワークシート、まなボードに記述する。 まとめ（例） 私は信長だと考える。理由は強烈なリーダーシップで旧来の古い考え方を壊す政策をたくさん実施し、楽市楽座に代表される経済重視の政策で経済力を強化した。その経済力を背景に鉄砲を中心とした新たな戦術を駆使し、他の戦国大名を圧倒したから。	○			知：近世（主に江戸時代）のイメージを問い、イメージを書き出していることを見取る。書き出すことが難しい生徒には、ペアワークで協働するという手立てを講じる。 【ワークシート、観察】 知：第5時～第7時にかけて学習したワークシートを振り返りながらまとめるように促す。 【ワークシート、観察】 思：項目ごとにどのような影響を与えたのか、グループ内で協働しながら考察し、社会の安定に貢献した点を明確にしている。 【ワークシート、観察】 態：グループのメンバーで協働しながら考察し、調べたこと、グループワークで考察したことを共有しようとしている。 【観察】 ワークシートに記入したことをスプレッドシートにも入力し、全体で共有する。

10 本 時	目標：信長、秀吉のどちらの政策が、より時代の変化に影響を与えたかという視点で発表したり、考察したりすることによって、信長、秀吉の事業や政策が、戦乱の世を終わらせたことにどのように影響しているかについての理解を深める。 1 前時までの学習活動の振り返りと本時の学習課題と活動について確認する。 課題 時代を動かしたのは、信長、秀吉のどちらだろうか。考えたことを発表し、発表を聞いて、考えを深めよう。 2 各グループで発表する。 - 各グループで5項目を発表する。発表の際は、各項目のどのような点が時代を動かしたといえるのかを明確にする。 - 選択した人物が時代を動かしたといえる決め手をまなボードに記入し、それを前面ホワイトボードに掲示して発表する。 - 各グループの発表を聞き、発表を評価する。 3 まとめの課題に取り組む。 (パフォーマンス課題) - 各グループの発表を聞いた後、信長、秀吉どちらが時代を動かしたかを考え、ワークシートに記述する。その際、時代を動かす上で大切なことやその人物が時代を動かしたといえる決め手を明確にして記述し、なぜその人物を選んだのかという理由もワークシートに記述する。 - 単元を貫く問い「なぜ戦乱の世が終わりを迎えたのか？」についての自分なりの答えもワークシートに記述する。 4 まとめ - ここまでの自己評価をし、オンラインアンケートに入力をする。				○ 思：発表する際は、必ず自分が調べた箇所は発表するよう伝える。各項目のどのような点が時代を動かしたといえるのかを明確にしている。 【ワークシート、観察】 知①：織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解している。 【ワークシート、観察】 - 各グループの発表の際ワークシートの評価の観点を意識させ、メモを取るよう促す。 - 次の3観点について評価するように指示する。 ①内容のわかりやすさ ②話す速さや声の大きさ ③理由の明確さ ◎ 態①：時代の転換に着目しながら近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現し、課題を主体的に追究、解決しようとしている。 【観察、ワークシート】 - 各グループの発表や既習事項を基に自分の考えを記入しようとしている。その際、各グループの発表をまとめたスプレッドシートを参考にして書いても良いと伝える。 思①：村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 【ワークシート、観察】
--------------	--	--	--	--	--